

# 平成29年度 自己評価結果

ひらやす保育園

## 1. 保育理念

子どもの幸せのため、子どもの権利条約（①生きる権利 ②育つ権利 ③守られる権利 ④参加する権利）を遵守し、人格主義の基本理念（誠実・忍耐・勤勉）と良心を育てる。

## 2. 保育方針

本園の教育・保育は園児の言語（英語を含む）、情緒、行動、社会性および身体の調和的発達を助長し、望ましい人間形成を目指すものである。

## 3. 保育目標

- ①情緒が豊かで明るい子ども
- ②よく考え、進んで行動する子ども
- ③仲良く遊び、協力し合う子ども
- ④身体が丈夫で逞しい子ども

## 4. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

園内環境を活かした保育の充実と共に、職員の質の向上を図る

## 5. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	備考
(1) 建学の精神や教育、保育理念に基づいた保育園の運営状況	B	
(2) 保育園の状況を踏まえた保育目標等の設定状況	A	
(3) 保育園の保育課程、保育方針について保育士間の共通理解	A	
(4) 保育園行事の管理・実施体制の状況	A	
(5) 年間の指導計画や週案などの作成の状況	A	
(6) 遊具・用具の活用	B	
(7) 保育士間の協力的な指導の状況	B	
(8) 乳幼児に適した環境に整備されているかなど、クラス経営の状況	B	
(9) 保育所保育指針の内容に沿った乳幼児の発達に即した指導の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境を通して行う保育の実施の状況</li> <li>・乳幼児との信頼関係の構築の状況</li> <li>・乳幼児の主体的な活動の尊重</li> <li>・遊びを通しての総合的な保育の状況</li> <li>・一人一人の発達の特性に応じた保育の状況</li> </ul>	A	
(10) 日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断の実施の状況	A	

(11) 事故等の緊急事態発生時の対応の状況	A	
(12) 法定の安全計画や防災計画等の作成・実施の状況	A	
(13) 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	A	
(14) 安全点検や、保育士の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	A	
(15) 個別の指導計画の作成の状況	A	
(16) 家庭との連携状況	A	
(17) 管理職の保育目標等の達成に向けたリーダーシップの況、また、多くの保育士からの信頼の状況	A	
(18) 保育園の明確な運営・責任体制の整備の状況	B	
(19) 各種文書や個人情報等の保育園が保有する情報の管理の状況、また、保育士への情報の取り扱い方針の周知の状況	A	
(20) 労働基準法等の各種法令の遵守状況	A	
(21) 保育研究の継続的实施など、指導改善の取組の状況	A	
(22) 園内における研修の実施体制の状況	A	
(23) 園内研修の課題の設定の状況	A	
(24) 園内研修・園外研修の実施・参加状況	A	
(25) 指導が不適切である保育士の状況の把握と対応の状況	A	
(26) 保育目標の設定と自己評価の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児や保育園の実態、保護者の意見要望等を踏まえた保育園としての目標等の設定の状況</li> <li>・目標等を踏まえた自己評価の項目の設定状況</li> <li>・自己評価が年に1回以上定期的に実施されているかなどの実施状況</li> <li>・自己評価の結果の翌年度の目標等の改善への活用状況</li> <li>・全職員が評価に関与しているかなどの体制の状況</li> <li>・自己評価の結果の設置者への報告と状況</li> </ul>	A	
(27) 保育園に対する保護者の意見・要望等の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の満足度の把握の状況</li> <li>・保育相談体制の整備状況、保護者の意見や要望の把握・対応状況</li> </ul>	B	

(28) 保育園に関する様々な情報の提供状況	B	
(29) 保育園公開の実施の状況	A	
(30) 乳幼児の個人情報の保護の状況	A	
(31) 自己評価結果の公表状況	A	
(32) 園便りやクラス便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供状況	A	
(33) 情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	C	
(34) 保護者の実情や要望による保育園の子育て支援活動の実施状況	A	
(35) 園や保育士による受け入れ体制の状況	A	
(36) 施設設備 ・施設設備の活用状況 ・施設・設備の安全・維持管理のための整備の状況	A	
(37) 遊具・用具・図書等 ・遊具・用具・図書等の整備状況 ・保育環境の充実のための取組状況	B	

## 6. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画の考察

結 果	理 由
A	<p>今年度初めて1年を通した保育を行ったが、職員同士が同じ目標を持ち、情報共有、協力する事で子ども主体の保育をする事ができた。</p> <p>職員研修を多く取り入れ、安心・安全な保育はもちろん保育の質の向上を目指し、その日に出た問題は、即座に話し合いを設け対策するなど、職員一人ひとりの意識が高まったように感じた。</p> <p>保育内容の面では、個々に応じた計画を立て、実践し、保護者とのコミュニケーションも大切にしながら発達の援助ができたと思う。</p>

## 7. 総合的な評価結果

園内研修により、様々な角度から保育を見つめるようになった。新聞・インターネットでの情報を共有し、隣接する保育園・幼稚園からのアドバイスをもらいながら安心、且つ自信を持って保育する事が出来た。

今後は、小規模保育園ならではの家庭的な保育を維持しながら、独自の保育展開が出来るよう、更なる質の向上を目指したい。

#### 8. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育所の特性を活かした保育の質の向上	0歳児、1歳児が共に生活する環境を活かし、新たな保育を展開していく。
保護者支援の充実	安心して子どもを預けられるよう、保護者とのコミュニケーションを大切にし、保護者の気持ちに寄り添う支援を目指す。
仕事の効率化を図る	最終目標を明確にし、タイムスケジュールを立てる。園全体が互いの進捗状況を確認できる環境を作り、協力体制を強化する。

#### ◎「4. 5. 6」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である